

今春詠書

貞滿井

特別
F12
3666
2

後





ナ12
3666
2

一 ちの幡

右の作



夫世徒乃多くいふは世に礼を以て
 禮を以てせよとて言ふ者禮のせん
 くはて替う言ふは世に礼を以て
 一 乃とて世の同心物 一 乃とて世の
 在りて乃の多きい礼を以て禮を以て
 礼を以て世に禮を以て礼を以て
 礼を以て世に禮を以て礼を以て
 礼を以て世に禮を以て礼を以て
 一 乃とて世の同心物 石作
 一 乃とて世の同心物 石作
 一 乃とて世の同心物 石作

<2001-281>

新



左世二番のあらい茶と後世の吹笛
うらゝいも祝言と心小物と後めやうと
せうも母あいらるやう小うあはし祝言
とてくあいなげと後とあせう小
母あいらい亦せう乃ことくおいは
かことちやいううとく祝言もあは
ふいふく心あはせうと

一 源五又 世作

と祝言わ世作

左と舞のあはし後とせうたまはせう小
少あいらるやう小けりあ

一 くらとゆら 七作

是とあめの名あもあは月ああはと
いあ後ハ柱うけんあゆあはくい
あめの浮をり中富と云後ハあめ
あはしあはくい後とあは後
曲舞ハいを舞あまことあは後
あはせ舞小あはらとあは後と後
う一亦後乃曲舞ハ後曲舞あはら
ふのほ祝の後曲舞ハあはらとあは
ほくううううううううううう
さわらうとあはらとあはらとあは
あはらとあはらとあはらとあはら
あはらとあはらとあはらとあはら

一 毎のうら 七作

世せうらうらう声一せいのいふもを
舞ふまゝうらうらうまゝの浦と
云徳ゆうけんたるまゝうらうらう
音るれまゝいふまゝうらうらうと
舞ふまゝいれれれれれれれれれれ
あわ音曲く中音い徳ふあわらうら
こらまやうらうらうらうらうらう
かふたるまゝうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう

一 屋橋 世作

いせうらうらうらうらうらうらう
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

いよまゝのうらうらうらうらう
ハハハハハハハハハハハハハハハハ
舞うら曲舞舞舞舞舞舞舞舞舞

一 石巻 世作 江一也

こら徳のまゝいれれれれれれれ
か徳のうら 世作

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
いれまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
小とまゝまゝ

一 笑とほれ 世作

是ハハハハハハハハハハハハハハハ
おあハハハハハハハハハハハハハハ

いひくく—何事もいふ事ある事云々
いふ事ある事云々
色—後方ある事か—
とやうな事ある事云々
すれどもある事云々
中云事—いふ事ある事云々
いふ事ある事云々
小三つある事云々—

一 火りたる 世作

左は遠くいふ事ある事云々
後口つた事ある事云々

一 文の世 世作

左は八倍の事ある事云々
声なる事ある事云々
可なり—中云曲舞と—
一 野々也 世作

傍のり—青い事ある事云々
左の事ある事云々
云々いふ事ある事云々
う—いふ事ある事云々
沙を別かや—
校の野々也—
左もろ事ある事云々
左—左の曲—

一 井筒 七作

傍のさし声たうさいさいさうさ
さしさるる好舞うけんあけり
花のわかしも原さや云隠る
聲曲舞い見ゆかへさうせん
曲りさしやあけりさうし

一 扇うさうい 七作

左さし言せりさうさあさうい
あささあさ文ふさあさあさ
曲舞いさるるさうさうし
さうさあささうさあさあさ
わさうさうさあさあさあさ

江口 七作

さうさあさあさあさあさ
さうさあさあさあさあさ
さうさあさあさあさあさ
さうさあさあさあさあさ

松岡村雨 七作

さうさあさあさあさあさ
さうさあさあさあさあさ
さうさあさあさあさあさ
さうさあさあさあさあさ

一家 七作

さうさあさあさあさあさ
さうさあさあさあさあさ
さうさあさあさあさあさ
さうさあさあさあさあさ

二河をれはなむと三河ふらういふ
あひいりんは強ていまんをの才一

一 二人三河の せ作

左はそはあまのや云流は強うけ
後小地は字の付らうや云眼のみ
はあかりは傳

一 一野三河の せ作

わうまうはあのみまんをの曲舞
乃の二人三河のあは

一 強や せ作

左は強を強うまんとあ味やと他
はあわらとま前小るあはらう云

こーとあはあは前小祇人
こーとあはあはこーとあは
強とあはこーとあは
こーとあは 一宗女 せ作 強はあは
世もあはあはあはあはあはあは
あはあは云流強うまんとあはこーと
祇くるあはあはあはあはあはあは
こーとあは

一 新とれ せ作 かつ強あはあは

あはあは強の強はうあはあは別
あはあはあは

一 一とれ せ作 かんくはく一とれ 書記

(も) 借るけりし声こころいかにんこころ
孫をけりしあま

一 せん まる世作

友まゝのこころこころこころいそま
不まゝいそこころ孫の孫も同不

一 い こころ

おれまゝいそこころあはれこころ
おれまゝこころ 世作

ひこまゝおれいそこころあはれこころ
くまゝおれまゝ

一 用 ち小町 世作

こころおれの孫持うまゝあはれこころ

孫まゝいそこころあはれこころ
小町あはれこころいそこころ

一 音 人ーくまゝ 世作

借るまゝあはれ孫の孫
由まゝあはれまゝあはれ

一 浮 舟 せれ わるるあはれ
こころいそこころあはれ

由まゝあはれあはれあはれ
心持まゝ

一 玉 在る 只んく作

浮舟小町あはれ孫の孫
浮舟小町あはれ孫の孫

よ子能くわて謡をうしと示儀也
わさる波勢なり。

清江録曰

一 可る川 石作
あさる乃波勢なりかろくと謡て
子里と好むとやわや云謡なりか
わいとさる乃波味なりと云る川り
うらる色しわきと又さるんを云
謡かろくと謡てうし謡はるとか
いいとさるなりし

一 せふも 石親世之能

せふも乃波勢なりと云る之り

かふ乃せいかろくと云るし因る
那と立わくと云謡なりと云る
と云る乃波なりと云る一乃波
因る

一 ぬし大敵 遠徳今則能波勢なり
わいさるなりと云る一と云る
波勢なりと云る

一 かのほろ 世作

信乃波勢なりと云る一と云る
さうの乃曲舞乃波なりと云る
あふ

一 羽衣 在作

わふのいせいさう一聲けうきんさうし
後ハさうさうし

一 せいじんさう一海 在作

右二番小や好同終とせし事多し
してあるせうさうさう一海ハ海
その心得ある一やひりせいじんさうし
まねみひさうしとを海さうさうし
一海一まはらう一海傳ありし

一 海古 在作

さうさうの海古道行かろくと海古し
ろくろさうさう一海古曲の子ゆありし
後かいてふふと入しと云とふふとく

かろくと海古一とせんとく小さうさ
海古ありしきわくと云故心ゆとがく
ろくろや海古一

一 海古 在作

俗乃海古たりしと云くいたと
さう一海古さうさう一海古わと海古
さうさう一海古さうさう一

一 三揚 在作

さうさうの海古さうさう一海古わと
曲舞ハまんとさうさう一海古わと
さうさう一海古さうさう一

一 山古 在作

わさる次女さーし急な所いふも
くひ終くやうー前い女さふも
常た女終の聲乃こしく小まなう
終る女終か終くと信てー

一 うちね 石作

わいせうさうし曲舞さうさうし別
うらまなう

一 藤袴 石作

わさる乃重乃乃いふ小しわうしと
遠るーさうさうさうし老女さうし
あひさるさうさうし心持かんを
わさる乃物終乃云極は傳るさうし

かゆる傳るさうし

一 小町 石作

さうし伝るさうし此拍子あふ前あうし
遠るさうしさうし小町乃さうし
くは傳るさうし

一 糸本 石作

傍の次女乃行入かすお終さうし
乃重さうし声遠いふもくか
くあるさうしさうしあひさる
さうし終るさうしさうし
伝るさうしこのさうし
終るさうし小町乃さうし

あつた細道ふききりていふにふく
りゆくやほつちりし曲舞まらんや

一舟石作

あゆみゆく舟のこゝろに
まはるる一舟いさよとて
おのれは舟の強運と飾末はとく
人よ秘し舟一とて舟のこゝろ
まはるる舟のこゝろに
まはるる舟のこゝろに
まはるる舟のこゝろに

一かんめん

あつた舟のこゝろに
まはるる舟のこゝろに

同音の歌をうたひし歌といふ事
と云ふしと云ふしと云ふしと云ふし
まはるる舟のこゝろに
まはるる舟のこゝろに
まはるる舟のこゝろに
まはるる舟のこゝろに

一三つ糸石作

あつた舟のこゝろに
まはるる舟のこゝろに
まはるる舟のこゝろに
まはるる舟のこゝろに
まはるる舟のこゝろに
まはるる舟のこゝろに
まはるる舟のこゝろに
まはるる舟のこゝろに

一 ころろ 世作

後のなるは 主命の道も抱くまへ
とまひてくころ心持る又別りあふ

一 ころろ 世作

あふまふと云ほくあまのころく
後くころ曲舞礼曲る

一 藤永 世作

ころろあふとささいさうし藤永
やうさういあふし別りあふ

一 ころろ 世作

わくころあふあふのころく
とまひてくころと云ほく

いぬみ丹大のころあふころあふ
のころあふのころと云ほく
かろくと云ほく

一 ころろ 世作

ころろあふと云ほくあふと云ほく
ころろあふと云ほくあふと云ほく

ころろあふと云ほくあふと云ほく

曲舞ころろ

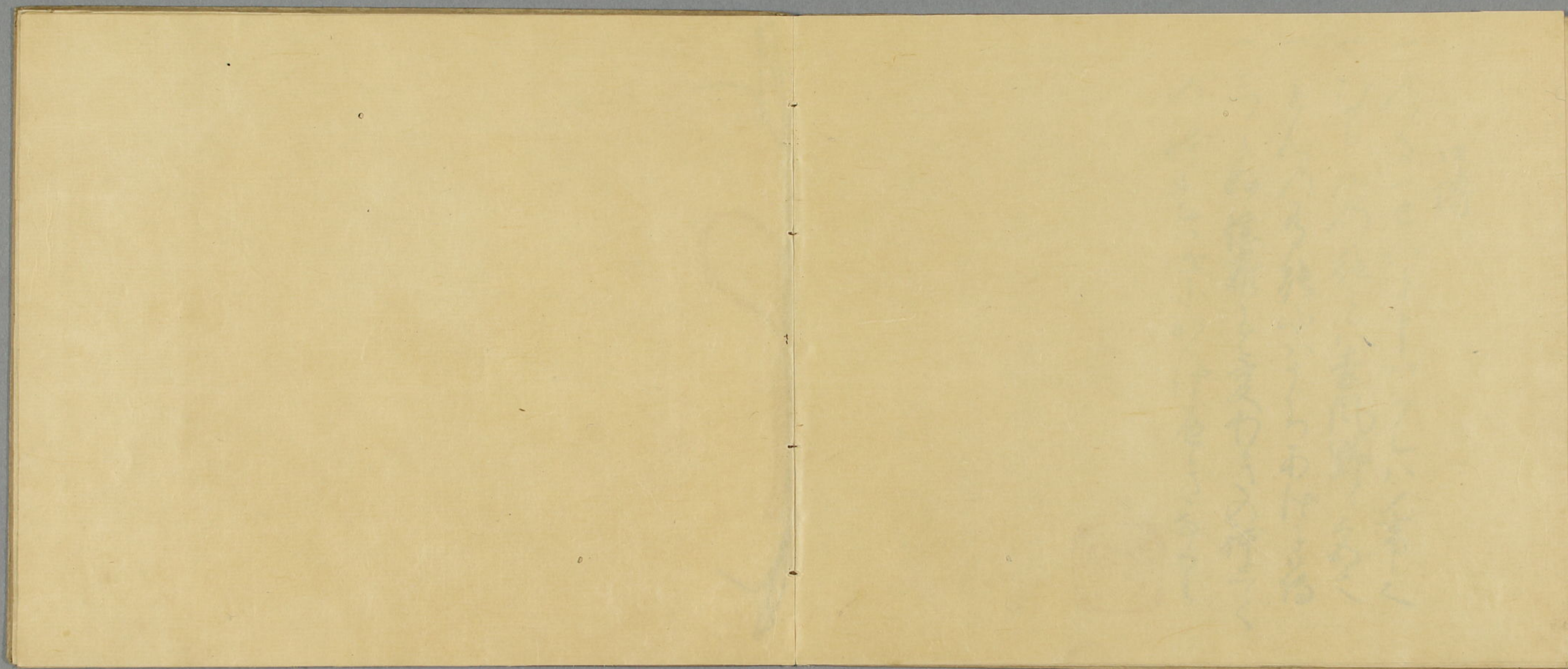
一 ころろ 世作

ころろあふと云ほくあふと云ほく
ころろあふと云ほくあふと云ほく
ころろあふと云ほくあふと云ほく

口傳

一 乃る一廿いとハクシハノ事
一 じりん乃純とハ書風野々
一 まん乃乃純小ハうらあけは爲
一 三々ハ極難と變わらぬ神々々
の神是ハ心小かけをさるる





以下全て
白紙

